

教育という仕事

短期大学部 明石一郎

最近、教え子の顔を思い浮かべることが多くなった。30歳後半までの小学校教員時代を思い出す。

教育という仕事の基本は何か。それは「子どもが好き」ということではないかと思う。

もちろん、「好き」なだけでは、教育の仕事は務まらないが、まずは、「子どもが好き」という子どもに対する愛情が出発である。

毎朝、恋人にあうような気持ちで、胸弾ませて教室に行くのが教員である。

「先生！」と呼ばれて振り返ると、そこには子どもの笑顔が・・・。

その喜びに突き動かされ、毎日働く。子どもの成長する姿が何よりの教員のモチベーションである。

- ・「教育とは、器に水を注ぐようなものではなく、子どもの心に灯をつけること」
(ウィリアム・アーサーワード：英国教育学者)

かつて担任した小学6年生(120名)に【好きな先生、嫌いな先生】について聞いたことがある。以下は、そのまとめである。

《子どもが好きな先生のベスト5》

- ① ユーモアがある
- ② 教え方が上手
- ③ やさしくもあり、時にきびしい
- ④ 一緒に遊んでくれる
- ⑤ 相談にのってくれる

《子どもが嫌いな先生のワースト5》

- ① えこひいきをする
- ② 短気ですぐ怒る
- ③ 教え方がうまくない

- ④ 独断的である
- ⑤ 小言をよく言う

ここ数年、教職員の新旧交代期をむかえ、毎年、新しい教職員が学校に着任する。今ほど、教員の使命感と情熱・専門性に加えて、その人の人間性が求められている時はない。これからの学校教育は、新採の先生たちの活躍と受け入れる学校教職員・組織体制の有り様にかかっていると断言しても過言ではない。

子どもにとって、最大の学習環境は先生が存在である。先生の情熱や意欲、好奇心と探究心などが子どもの夢や将来の目標を育む。

教員の人格的な力量は、子どもに対しての受容的態度であり、人権意識の高さやヒューマン・スキルが大きく子どもに影響する。

子どもの心を引きつける先生に共通しているのは、明るく元気でよく動き、心身が安定していて、子どもの声や所作にアンテナ高く、「あとでね」を言わないことか。

忙しい合間をぬって、運動場で一緒に遊んだり、始業前の時間や放課後などに子どもたちと何気ない会話に興じている先生もそうだと思う。

一言で言えば「教え方がうまくて、人間味あふれる先生」である。

オーストリアの著名な動物学者であるコンラート・ローレンツ博士は、

「人間は、自分の好きな人、しかも尊敬・信頼する人からのみ文化・伝統を受け継ぐことができるようになっていく」と言っている。

教育の営みは、教師と子どもの良好な人間関係の構築から始まるのである。

来年度に向けた教育実習と教採対策開幕

本年度(27年度)教員採用試験の最終結果がほぼ確定されました。ただ、大阪府では、小学校・中学校両方の免許状所有者にかぎり、「いきいき」という領域で教採の追加試験が実施される予定です。

このようなチャレンジできる機会が巡ってきましたので、本学においても有資格者はどしどし活用されることを期待します。小学校免許状と中・高の英語科免許状所有または取得予定者は積極的に応募してください。

過日 10月25日(土)、本年度の全国公立校の合否の結果の確定の最中、本学の次年度に向けた恒例の教育実習ガイダンスが実施されました。小学校教員コースに限っては小学校の教育実習を3回生時の実施予定につき、2回生の段階で、中・高の教育実習ガイダンス

《一口メモ》教採の年度表記
教採の年度表記は、次年度の4月採用という意味で、本年度の次の年度表記により案内や実施がされています。今年度(平成26年度)の教採については“平成27年度”という表記で行われました。だから来年度教採は平成28年度という表記になります。今から1年先の採用に向けてという意味でご理解ください。

とは別会場で行われました。

例年、この10月実施のガイダンスをきっかけに本格的な教採に向けたスイッチが入ります。これまでの曖昧な生活から教員を志した真剣な勉学姿勢に大きく変化します。ガイダンスで登壇された本学出身の先輩の先生のお話に『大変』という言葉は“大きく変わる”」チャンスが訪れたことを意味するというご助言が印象に残っています。

さて、皆さん、いよいよ来年度に向けた教育実習と教採に向けた対策の開幕がやってきました。このターニングポイントを最高に生かしましょう。その姿勢と行動の真価が問われます。強い決意を期待します。

【合格体験記】速報第3弾

今年度第1番目の教採合格の朗報を香川県の多田さんから受け取りました。本紙掲載の時期が少し後になりました。このように投稿の順に引き続き朗報とその声をお届けします。読者の皆さんは自分の糧に参考にしてください。そして勉学と元気、活気、やる気につなげてください。

多田 龍司 さん 香川県 中学校 英語科 合格

外国語学部 英米語学科 4回生

「教職課程の中で多くの仲間と教育を学べた誇り」

今年の5月、留学を終えて帰国の途についた際、私は教員採用試験に対する焦りを微塵とも感じていませんでした。只々、留学を無事に終えたという満足感に浸っていたのです。しかし、留学終了のわずか10日後には教育実習が待っていました。焦りも危機感も無く臨んだ実習では、自分の認識の甘さを思い知らされました。教師として必要な知識も覚悟も私には欠けていたのです。

教育実習を境に、私の生活は教採合格を目標にして、大きく変わりました。地元の香川で教員養成学校に通い始め、同志と共に教育を想いました。教職教養を深めるために、10年分の教採過去問を繰り返し解きました。中学の時に世話になった塾で模擬授業の練習を何度もさせていただきました。教採に対する不安とストレスで押しつぶされそうになることも多かったです。その度に大学の友人や先生方の支えに救われました。

採用試験の日が近づくにつれて、緊張が強くなってきました。もし自分の未熟さを悟っていなかったならば、教採に対して一切の恐怖も緊張も抱かなかっただしょう。そういった意味では、私の中に教師になる覚悟が少しずつ芽生えてきていたのだと思います。結果として香川の教採に合格することが出来ました。しかし合格そのものは、私の第一の喜びではありません。この四年間、教員になるべく積み上げてきた様々な努力が認められ、これからの教育に必要な人間として求められたという事が私にとっての最大の喜びです。

教職課程の中で多くの方と知り合いました。どの方も真剣に教育に向き合っていました。そん

な方々に混じって、教育を学べたことを自分は誇りに思います。そうして学んだことを胸に刻み、教育従事者としての人生を歩んでいきたいといます。

上田 知幸 さん 大阪府 高等学校 英語科 合格

関西外国語大学大学院 外国語学研究科博士前期課程 英語学専攻

「人とのつながりを大切に」

皆さん、こんにちは。大学院1年生の上田知幸と申します。この度、大阪府の採用試験を受験し、合格をいただきました。今まで熱心に指導して下さった先生方、切磋琢磨してきた仲間たちに、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

私が採用試験に向けて心がけていたことを2点紹介します。これから採用試験を受ける皆さんの力になれば幸いです。

まず1点目は、「目標を持つ」ということです。採用試験までに出来ることは何かを考えるだけでなく、1つずつ取り組んでいくことが大切です。（当たり前のことかもしれませんが、この当たり前が難しいです。）例えば、今週は一般教養・教職教養をここまで覚える。そして、英字新聞を読み、英語でまとめる。など、早いうちから具体的にページ数を決めて無理のない目標を持って取り組むことが大切です。目標を持てば、それに向けて全力で取り組むことが出来ると思います。小さな目標を持ち、積み重ねてきたことは、教員採用試験の時だけでなく、教壇に立った時にも必ず役に立つと思います。

2点目は「人とのつながり」です。関西外大の素晴らしいところは、合宿などでOB・OGがいらっしゃって、面接や討論などのお手伝いをして下さり、会場の様子や面接内容など、多くのことを聞くことができるということです。他大学にはない、関西外大の強みだと思います。また、人とのつながりに関して、同じ志を持つ仲間がいたことは、一番の力になりました。面接練習や集団討論などは1人では出来ません。筆記の勉強は一人でできるかもしれませんが、一人より仲間と切磋琢磨した方が数倍良いと思います。気持ちが落ち込むときは、仲間とご飯に行ったり、BBQをしたりしながら、息抜きをすることもありました。出会いとつながりを大切にして、日々の生活を送ってほしいと思います。

最後に、関西外大は教師になるには最高の環境だと思います。熱心な先生方、支えてくれる仲間がいます。自ら積極的に行動して、人と人との出会いを大切にして欲しいと思います。今出来ることに全力で取り組んでください。

島本 翔太 さん 大阪府 高等学校 英語科 合格

国際言語学部 国際言語コミュニケーション学科 4回生

「今、ここ、自分に夢を持つ」

皆さん、こんにちは。4年の島本翔太と申します。この度は周りの方々のご指導、サポートのおかげで、大阪府の高等学校英語科を合格致しました。心より感謝申し上げます。この場をお借りして、合格までに大切にしてきた2つのことを書かせていただきます。これから教師を目指す人、そうでない人も何かアクションを起こすきっかけになれば幸いです。

① 自分を信じること

元々勉強は大の苦手な教師になりたいとは、1ミリも考えていませんでした。ですが高校3年時の学園祭で仲間と達成感を共有した時の感動がきっかけで、教師を目指すようになりました。

はじめは「お前が教師？」と言われる事もありました。でも私はきっかけを忘れず精進した結果、「お前は教師！」と周りの見る目も変わりました。その後は自信を持って、自分の道を進むことができました。

この経験から皆さんに伝えたい事は、“夢のきっかけ”を忘れないでほしいことです。きっかけに大きい小さいありません。これがしたい！と思ったのなら、その直感に身を任せてください。それが皆さんにとって唯一無二の答えです。

② 仲間と共に

やはり教員採用試験は長く厳しい道のりです。個人の意見ではありますが、一人で努力しては、継続することは難しいです。だから私は仲間と協力して勉強しました。2つ勉強の場を紹介します。

1. サイズペ

西村先生が主催するサイズペに通い、教職教養、面接、英語ディスカッション等、仲間と共に高め合いました。ただ通って話を聞くだけでなく、自分がどのようなアクションを起こすか、という事を意識しました。例えば、面接練習においては正直に自分の気持ちをぶつけてみる事です。最初はテクニックを意識するのではなく、多少支離滅裂でも自分の心からの思いをぶつけてください。この瞬間こそ Don't be afraid of making mistakes です。そこから改善点を見つけて Blush up していく。このような流れで面接対策をしました。

2. 朝活動

皆さん、昼からの授業も多いのではないのでしょうか。「授業昼からやし、まだ寝れるやん！よっしゃ！」…その寝ている間に、周りと確実に差はつけられています。そう感じた私はゾツとして、地元が近いサイスペの仲間と朝7時に茶店に集合して勉強するようにしました。題して朝活動。

内容はサイスペで学んだことの復習及び、自分で購入した参考書の問題を解きました。2人で朝活動をした理由は、約束するので責任が生まれ、自然と朝起きて勉強することができたからです。もし寝坊したら、コーヒーを一杯奢らなければならないというルールも設けました。そうすることで毎日朝勉強する習慣が付き、ゾツとすることはなくなりました。

この2つの勉強の場に共通して、学習ではなく楽習することを意識しました。おもしろくなかったら、続けられない性格なので、様々な工夫をしました。例えば、去年の先輩に教えていただいたゴロ合わせを発展させ、西洋教育史ゴロ集を作成しました。また単語カードを使ってオリジナルの1問1答を作る等、アイデア一つで楽しくなりました。また作ったものを仲間に共有することでさらに定着します。

最後に

最初に申し上げた通り、皆さんの直感が全てです。スタンフォード大学の卒業式で Steve Jobs が残した言葉でもありますが、直感に従えば、自分の道は切り開けます。周りが何を言おうと、結局自分の道は自分で探して自分で進む。自分が変われば周りが変わる。そして必ず同志の仲間が現れます。その仲間と共に、最後まで諦めず、続ければ必ず夢は叶います。

これから夢に向かって突き進む皆さんを心より応援しています。最後まで読んでいただき、本当にありがとうございました。

Find yourself, and you can find what you want to do.

富久保 明さん 大阪府 中学校 英語科 合格

国際言語学部 国際言語コミュニケーション学科 4回生

「夢を味方に☆☆」

皆さん、こんにちは。国際言語学部の富久保 明と申します。この度、第一希望であった大阪府・中学英語で合格をいただくことができました。この結果にただただ驚き、今まで支えてくださった方々に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

〈教師〉を夢みたのは中学一年生でした。私の目に写る先生は皆キラキラして憧れの存在でした。「良い教師との出会いによって生徒の人格もそして人生も変わる」中学生の私は生意気ながらそう思っていました。中学・高校・大学と陸上競技部に所属し、朝から晩まで陸上漬けの生活を送り、青春時代

を送りました。しかし私は本当に世間知らずで母からよく叱られました。そんな私を変えてくれたのは大学二回で行ったカナダへの留学と西村先生との出会い、そして西村先生が休みも返上して開いてくださっている「サイスペ」と呼ばれる教員採用試験対策講座での尊敬できる仲間との出会いです。留学では世界の広さを知り、一瞬で魅了されました。感動の連続でした。「この感動を将来英語の教師になって生徒に伝えたい！」「私の授業で一人でも多くの生徒に英語を好きになってもらいたい！」そう強く思いました。そして私たちの恩師である西村先生はいつも明るく前向きで教師を目指す私たちに「教師は感動がいっぱいある仕事」「教師が変われば生徒も変わる！」「人生粘り強さ！！」などたくさんの明言を残してくださり、40年に渡る教師人生を私たちに熱く語る西村先生はいつも輝いてキラキラしていました。「私もこんな先生になりたい！」と強く思いました。

また、私は大学3回生からサイスペに参加し始めたのですが、そこで出会った仲間は皆意識が高く私の何倍も努力をしていました。一つ上の先輩方はいつもの確かなアドバイスを下さり、学ぶことがたくさんありました。そして、そのころから始めた不登校支援、特別支援学級サポーターなどの学校ボランティアは教師を目指す私のモチベーションを高めてくれ、そこで出会う生徒たちは本当に可愛く、私に元気と勇気を与えてくれました。

私は約10年続けてきた陸上の最後の公式大会が教員採用試験のギリギリまであったので、人の三倍ぐらひは努力しないと合格はできない、と常に自分に言い聞かせプレッシャーをかけました。私は昔から勉強が得意な方ではなかったので、勉強が嫌になり、自暴自棄になる日もありました。そんな時は、大好きな友人たちと遊びにいたり、美味しいものを食べたりして息抜きをしました。家で飼ってるペットたちも荒れた心の私を癒してくれました。日に日に、教採への緊張は増していききましたが、「やるだけのことをやってあかんかったらもう仕方がない」と思うようになりました。教採本番は亡くなったおばあちゃんの仏壇で手を合わせて「頑張ってきます」と言いました。一次試験の集団面接では私以外全員講師の方で現場の経験をすごく語られていて少し戸惑いましたが「私は私や！」と思って胸を張って今まで自分が経験してきたことを話せました。二次試験では常に西村先生と一緒に頑張ってきた仲間の顔が浮かんでいました。「学研都市キャンパス全員で合格する！！」それが西村先生へのせめての恩返しだと私たちはいつも話していました。

今まで本当にしんどい日も心が折れそうな日もたくさんありました。それでも夢を諦めずここまでやってこられたのはまぎれもなく今まで支えてくれた方々のおかげです。一番近くで温かく応援してくれた家族(特に祖父)、私に自信を与え背中を押し続けてくれた友人たち、いつもアドバイスをくださった先輩方、陰ながらずっと応援してくださっていたボランティア先の先生方、私に良い刺激をいっぱいくれて一緒に闘ったサイスペのみんな、そして何より私たちの合格を信じ、最後まで粘り強く指導をくださった西村先生、本当にありがとうございました！！いつも学研都市の教職を引っ張って下さり、先生がいなかったら合格はまずできなかったと思っています。感謝しています。

私はやっとスタートラインに立てました。これからたくさん経験を積み一人でも多くの生徒に夢や希望を語れる教師になりたいと思います。そのためには自分自身、教師として、また一人の人間として人間力を磨いていきたいと思います。決して怯むことなく、雑草魂で頑張ります。本当にありがとうございました！！♪

新居 夕季さん 大阪府 中学校 英語科 合格

国際言語学部 国際言語コミュニケーション学科 4回生

こんにちは。国際言語学部 4 回生の新居夕季です。この度、大阪府の中学校英語教員として合格をいただきました。教員採用試験を受験するにあたって、本当にたくさんの先生方、そして仲間を支えられたと感じています。

羅針盤に体験記を掲載する機会をいただきましたので、私自身の教員採用試験に向けての取り組みを振り返り、大切にしていたことを 3 点紹介させていただきます。これから教員採用試験を受けられる皆さんに、少しでも参考にさせていただければ嬉しいです。

1 つ目に私が大切だと感じることは、一緒に頑張る仲間を作ることです。私が教員を目指そうと本気で決意したのは 3 回生の頃でした。最初は何かから始めたら良いのかもわからず、時間のある時に参考書に目を通す程度でした。

教員採用試験の対策方法に迷っていたときに、サイスペ（採用試験スペシャル）という勉強会に誘っていただきました。週に 2 回、放課後に集まって西村先生から勉強方法などを教えていただき、何度も面接の練習を重ねました。最初は周りのペースについていけず、戸惑うことも多々ありましたが、勉強会に参加するうちにだんだんと勉強の仕方や、面接の対策方法がわかるようになりました。

仲間と一緒に取り組むことで、自分にはない意見やアイデアが聞けて、自分の視野も広がったように思います。特に面接対策は 1 人ではできません。実際の試験を想定して練習したり、面接官役をしたりすることで気づきや発見がたくさんありました。

そして何より、励まし合える仲間の存在が自分の原動力になります。しんどくなった時も「周りのみんなが頑張っているから、頑張ろう！」と気持ちを切り替えることができました。みんなで一緒に合格を勝ち取ろう！という雰囲気の中で共に勉強できた環境が本当にありがたかったなあと思います。

2 つ目は、人と比べないことです。勉強を始めたころは、どうしても人と比べて自信を失いそうになることがありました。教職教養でたくさんの知識を身に付けている人や、面接練習で上手に話をする人を見ると、正直不安に思うこともありました。

そんな時に、西村先生の「Don't compare with others!」という言葉聞いて、気持ちが楽になったことを覚えています。それから、人と自分を比べるのではなくて、自分がどれだけ成長できているかを見つめるよう心掛けました。

「今日できなかったことは、明日できるようにしよう」「明日の面接練習では、もっと大きな声で話をしよう」と考えると、筆記試験も面接練習も前向きに取り組めるようになりました。また、できなかったことができるようになれば、自分の自信にもつながります。

自分の弱点を取り上げて悲観的になるのではなく、その弱点をチャンスだと捉えて、日々のレベルアップに努めてほしいと思います。

3 つ目は、できるだけたくさんの経験をつむことです。学校ボランティアや留学、英語の勉強など

時間のあるうちに積極的に取り組んでほしいです。というのも、私自身在学习中に留学に行くことができなかつたことが心残りに思っているからです。

人の話を聞いていても、その話の背景に「経験」があるのとないのでは、大きく異なります。経験に基づいた話は説得力があり、心に残ります。面接で話をする際にも、経験があれば自信をもって語ることができると感じました。もちろん、面接のためだけではなく、どんな経験でも、学校現場に出ても生かせることばかりだと思います。

特に学校ボランティアは、今後現場に出て働くにあたってとても意味のあることです。私も先輩方からお話を窺い、できるだけいろんな学校に行って生徒や先生方から学ぶことが大切だと教えていただきました。

教員採用試験の対策と両立するととなると、時間の使い方などが重要になるとと思いますが、今のうちにできる経験、今しかできない経験をたくさんしておくことが、将来必ず役に立つと思います。

先にも述べましたが、私一人では今回の合格をいただくことはできなかつたと思います。こうして採用試験への取り組みを振り返り、改めてたくさんの方の支えがあったことを感じます。ありがとうございます。

これから採用試験を受験する皆さん、仲間と共に、最後まで粘り強く頑張ってください。きっと今の努力は、後に皆さんの大きな自信になると思います。

私も来年の4月から、生徒を前に教壇に立つということで不安もありますが、理想の教師に近づけるよう努力します。ここからが本当の意味でのスタートになります。良いスタートダッシュが切れるように、卒業までの時間を大切に有意義に過ごしたいと思います。共に頑張りましょう。

中富 咲里 さん 東京都 中・高等学校 英語科 合格

外国語学部 英米語学科 4回生

「All things are possible if you can believe!」

皆さん、こんにちは。私は、東京都の中学校・高等学校共通で合格をいただきました。これまでの私が歩んで来た道のりや心情を踏まえ、採用試験に向けて何をすればいいのかお伝えしたいと思います。

3回生の夏に、フィンランドの大学へ教育学を学びに交換留学へ行きました。ただし、教育実習や採用試験に遅れを取らない為に、一学期間で帰国しました。誤解を招かないように言いますが、成績不良や、ドロップアウトではありません。ですが、帰国後に「燃え尽き症候群」になってしまい、冬休みの3ヶ月間何もやる気が出ず、採用試験等の準備は全く出来ませんでした。

4月になり、新しい授業が始まり、同じく採用試験を受ける新しい仲間と出会い、焦りを感じ、やっと行動を起こしました。具体的に言うと、自主ゼミの参加や、採用試験対策合宿の参加、KTAPの活動、そして授業後は図書館で教職教養の勉強です。少しネガティブになりますが、正直に言うと常

に仲間に対して自分が抱いていたのは「劣等感」です。皆が試験の対策に燃えており、キラキラしていて、自分に自信を持てなかったのが、皆でディスカッションや面接練習をする事は、今思い出しても本当に怖かったです。そして週4～5回のアルバイトを無理矢理入れられていたので勉強することが出来ないストレスが半端無かったです。

私は大阪府と東京都を受けましたが、大阪府は一次試験で落とされてしまいました。集団面接で、他の受験者の緊張が移り、自分が言いたかったことを言えなかった事が原因です。しかし、東京都の試験では嬉しい事に、一次試験（教職教養、専門教養、小論文）は突破できました。二次試験（集団討論、個人面接、英語面接）に向けて仲間と対策をしましたが、私は大阪府で侵した失態を二度としない為、とにかく「自分をさらけ出す」ことを目標にし、それを達成することができました。支援、指導をしてくださった先生方、一緒に勉強した仲間がこの場をお借りして感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

長々と自分のエピソードを書いてしまいましたが、採用試験に何をすべきか、私が皆さんに一番伝えたい事は「自分を保つ」ということです。もちろん筆記試験の対策も必要ですが、教職教養はやればやるほど身についてくるので心配は要りません。（ただかなりの気力と忍耐力が必要です）それよりも、自分を見失わないでください。周りに流されないでください。面接官からの質問に対して、自分の素直な気持ちを語ってください。どれだけ内容が立派な答えでも、作られたものでは見透かされてしまうからです。それでも見失ってしまったら、初心に戻ってください。何故自分は教員になりたいのか？たくさんのヒントとなる要素がそこには溢れています。

もう一つ、教員を志すにあたって他の学生やそれ以外の人からにも、「模範」となる人間になってください。ポイ捨てをしないこと、歩きスマホをしないこと、授業に遅れず勉学に真摯に取り組むこと、人の話を最後まで聞くこと、思いやりの心を忘れないこと、人間として当たり前のことから始めてみてください。そうすれば、自然と良い結果はついて来ます。でも遊ぶときは思いっきり遊ぶこと！メリハリが大切です。

長くなってしまいましたが、ここまで読んでくださりありがとうございました。これから採用試験を目ざす方、教職の先生方を、仲間を、そして自分を信じて頑張ってください！！！！

白川 夏美 さん 大阪府 中学校 英語科 合格

外国語学部 英米語学科 平成 26 年 3 月 卒業

“前向き” な姿勢

皆さん、こんにちは。今年の3月に卒業し、現在、非常勤講師をしております、白川夏美です。この度、大阪府教員採用試験で中学教諭の合格を頂きました。なによりも第一に、私が伝えたいことは周りの人への感謝の気持ちです。卒業生にも関わらず、最後まで熱心にサポートしてくださった絶対的信頼を持てる教職教育センターの先生方、試験対策を一緒にしてくれただけでなく、いつもエネルギーとパワーを与えてくれた現役の4回生の皆さん、そして、同期の仲間たち、すべての人たち、本

当にありがとうございました。そして、やっと両親を安心させることができる1歩を踏み出せたのではないかと感じ、とても嬉しく思います。

さて、私の思いを2点に絞ってお話させて頂き、少しでも皆さんの力になればと存じます。

●まず1つ目、周りのつながりを絶対大切にしてください。～ 夜スペ ～

“今年こそは絶対に受かりたい”そんな気持ちは誰よりも強かった自信があります。しかし、私は、スタートダッシュは1人で切って、突っ走って、結局空回りするタイプで、新しい環境での様々な疲労のせいか、気持ちと行動が伴わないというGAPがストレスで、今回もいつもの自分にのまれそうでした。

そんな時、今年一緒に卒業した同期が誘ってくれた夜スペが、私の合格へのラストパートのエンジンをかけるきっかけとなりました。先生方・現役生が“みんなで合格をしよう”そんな雰囲気私を迎えてくださり、“教職関係の後輩との繋がりも全くなかった私なんか参加して大丈夫かな”という不安は、すぐにかき消されました。1次試験の集団面接練習はもちろんのこと、皆さんと関わることが、筆記試験の最後の詰めへのモチベーションへと繋がりました。また、2次試験にて、自分に自信を持って臨むことができたのは、自分一人だけではなく、みんなで頑張ってきた顔が頭に浮かぶ心強さがあったからだと考えます。最後は自分で行動をしなくてはいけません、自分一人では能力の限界がありますし、改めて、周りの人と切磋琢磨することの大切さも実感しました。

長期留学などにより、夜スペへの最初の参加が遅れてしまう人など、何人か出てくると思います。絶対にためらう必要はありません。本気で合格したいという気持ちさえあれば、遅れてでもみんなは受け入れてくれます。自ら行動し、参加し、自分からみんなで合格をつかみ取りに行きましょう！

●2つ目、自分の中の“教育哲学”を持ってください。

なんで教師になりたいのか、教師になって何を伝えていきたいのか、英語をどう教えたいか、英語の何を教えたいのか、など、自分の信念を持つことです。考えるだけでなく、英語の文章に表わし、何度も何度も書き直してください。恥ずかしい話ですが、私はとても難しく感じました。教師に対するいろいろな思いはありましたが、いざ文章でまとめようとすると全くうまくいきませんでした。しかし、何度も書き直す中でしっかりと軸や信念が見えてくるだけでなく、2次試験で使えるような英語力も身に付きました。面接はもちろんのこと、集団討論や英語専門の筆記試験などほか全ての場面で活用できました。この英語で考えた信念さえあれば、どの方向から話題が振られたときにも対応ができます。自分の中での“教育哲学”を持っておくことは、絶対にどの場面でも味方になってくれます。一人の恩師のアドバイスのもとに取り組みましたが、これは本当におすすめです。

長くなりましたが、最後に、今回は合格できなかった人はとても悔しい思いをしていると思います。その気持ちは痛いほどわかります。しかし、非常勤講師という経験があったからこそ、私は周りの先生をみながら、絶対今年こそは受かりたいという気持ちが強まりました。そして、今年の合格につながりました。今、与えられた環境をどのようにプラスにとらえ、その環境の中から、自分からどれだけ吸収するかで、今回の非常勤講師の経験値にも差がでてくると思います。様々な後悔はすぐに切り替え、必死な思いで働いてきてよかったと思っています。むしろ、非常勤講師をさせて頂けたことに感謝しています。絶対にあなたにとってプラスの経験が待っています。ですから、これから受験する皆さんも、不合格を恐れず、前向きな姿勢で試験に挑んでください。

試験に受かって、教師になることがゴールではありません。その前後の経験も含めて、自分がどう

ありたいかをしっかり考えることが大切です。今回は合格できなかった人も、今回合格できた人も、これから受験する人も、生徒にたくさんの愛情を注いであげられる先生を目ざして、みんなで一緒に熱く頑張っていきましょう。

宗光 惇 さん 広島県 中学校 英語科 合格

外国語学部 英米語学科 平成 26 年 3 月 卒業

「教員としての自分を見つける」

皆さんこんにちは。今年の3月に関西外大を卒業した宗光 惇と申します。現在は、広島県内の中学校で臨時採用として働いております。この度、広島県の教員採用試験（中学校・英語）に無事合格することができました。今回の合格までには本当にたくさんの方々を支えられてきました。感謝の気持ちを忘れずに、これからも日々精進していきたいと思っております。今回の受験は2回目で、昨年度も広島県を受験しましたが、2次試験で不合格となりとても悔しい思いをしました。しばらく元気が出ず、これからのことを考えるのもしんどくなり、苦しい思いをしたのを今でも覚えております。しかし臨採という絶好のチャンスを頂き、経験をしっかりと積んで次回の採用試験を絶対に受かってやるという気持ちが同時にわきました。大学を卒業してはや7ヶ月が経ちますが、仕事を通じて成長できた部分もあれば、なかなかうまくいかないこともあり、苦しい経験も何度もしてきました。しかし、人は努力した分だけ必ず返ってくるということを実感した7ヶ月でもありました。これから教員を目指される方は必ず壁にぶつかる瞬間があると思っておりますが、決して諦めず、最後まで自分を信じて、仲間を大切に頑張ってください。私のアドバイスが少しでもこれから目指される方々にとって有益になればと思います。

・勉強は計画性を持って

私は採用試験の勉強を大学3回生の11月から本格的に始めました。筆記試験（教職教養・一般教養）、面接、模擬授業、集団討論など合格までの道のりには数々の対策が必要になってきます。いろいろ気になるところですが、まずは筆記が最初の壁です。私の場合、過去問の分析をし、3月までに教職教養の参考書を完璧に覚え、4月からは全国の過去問と演習問題をひたすらやる、自分で合格問題集・ノートを作るなどして、どの問題がきても答えられるような対策をとりました。4回生になるまでに基礎の土台をどれだけ作れるかが勝負だと思います。よく友達と閉館ぎりぎりまで図書館で、その後駅前のスタバでギリギリまで勉強をやっていたのをよく思い出します。そのおかげで、過去問や問題集の正答率が7割をきることはほぼなくなりました。今思えば採用試験中心生活になっており辛い時もありましたが、とても充実した日々を送ることができました。

・子どもの視点にたって考える

昨年度、2次試験に落ちたときに、なぜ自分は不合格になったのかをずっと考えていました。面接が悪かったのか？模擬授業が悪かったのか？しばらく答えを探すことはできませんでした。しかし臨採を経験する事で、少しずつその答えが分かってきたような気がしました。子どもに対する思いが欠

けていたのではないかと。面接にしても、子どもに付けさせたい力、そのために必要なこと、何を教えたいのかなど、子どもの視点にたった発言が求められているのだと。模擬授業にしても、子どもをひきつける、興味・関心を持たせるような授業、学びがいのある授業を展開していかなければならないのだと。だからこそ、教員を目指す者は子どもに対する思い、情熱がしっかりしていなければなりません。今回の合格には今までの経験がとても活かされました。大学でのボランティア活動、臨探での経験。実際の子どもに触れ合うことが一番の勉強になり、教員としての思い、自分の描く教師像を考える事ができる良いきっかけとなりました。どうして教師になりたいのか、教師になってなにをしたいのか。今一度教員としての自分探しを是非してください。そのためには経験です。学生であるうちはボランティアに参加する事が一番です。今からでも遅くありません。ちなみに私は3回生の冬期にボランティアを始めました。人より回数をこなしておりませんが、大事なものは1日1日を大切に、何を学び得たかです。ボランティア等で経験を積むと面接に強みが出ますよ。教員としての自分を見つけたとき、面接で自分の思いを言う事ができ、自分の力を発揮できるでしょう。なぜなら子どもに対する思いがあるからです。日々、教員としてのアイデンティティを確立させていきましょう。

今回2つのアドバイスを申しましたが、まだまだ伝えたい内容はたくさんあります。最後にはなりますが、やはり採用試験にしても、学校現場にしても、「組織力」が大事です。1人では乗り切る事はできません。仲間との団結、周りとの連携をしっかりとしてください。これから採用試験を受ける皆さん、最初にも話しましたが、これから壁にぶつかることが何度もあります。そんな時こそ、仲間と支え合ってください。また仲間がくじけているとき、支えてあげてください。そして、諦めないでください。ネルソン・マンデラの言葉で“*It always seems impossible until it's done.*”という言葉があります。私はいつもこの言葉を胸に刻んで、毎日諦めずに毎日を過ごしています。あきらめずに、自分を信じて最後まで頑張ってください。微力ではありますが、広島県から応援しています。しかし、採用試験をゴールとしないでくださいね。あなたたちの夢は、**教師になることです**。この意味はもうわかりますね？ともにこれからの子どもたちのために一緒に頑張りましょう。採用試験を受ける皆さん、心から応援しています。頑張ってください。

桑野 玲 さん 大阪府 高等学校 英語科 合格

外国語学部 英米語学科 平成 26 年 3 月 卒業

「常勤講師の経験を活かして」

・強みを活かして自己アピール

常勤講師として半年間、茨田高校の方で働かせて頂き、実践を通してやりたいことが明確になることに気付いた。私は、ICT を用いて視覚的に英語を教えることに力を入れていて、模擬授業や採用試験の面接でもICTを使った授業を紹介し、視覚的授業展開の有効性を示した。授業の目的を明確にし、その効果を示すことは重要なことなので、どこに力を入れて教科指導を行いたいのか整理し、教育実習やボランティアで試して生徒の反応を見るとよい。

・面接のポイント

面接を受ける際に気を付けることは、いいことを何個も挙げるのではなく、自分の強みと現在取り組んでいる内容を整理し、今後の展開をどのように考えているかを素直に話すことがよい。(面接官との相性もあるので、運の要素も大きいと思う。) 大学の講義では、学生間でたくさんの意見交換をすることができ、様々なアイデアを吸収することができるが、自分のスタイルとあっているかは分からない。実際に体験したボランティアやイベントのストーリーは、面接官に主張が伝わりやすくなると思う。座って講義を聞くだけでなく、様々な体験を通して自分の主張を高めるとよい。

講師経験からのコメント(面接と関係はありません。)

・環境作りと、一貫した約束事を作る

学校によっては、生徒との論争もよくある。生徒への対応で、注意をすると決まって耳にする言葉が、「そんな前に言うてなかったやん。初めて聞いたし。」である。生徒が落ち着いている環境で話しないと、ほとんどの内容を聞いていない。まずは騒いでいる状態を落ち着かせることが必要である。約束事は何事も始めに決めて、クラスに掲示しておくことよい。授業でも同様に、約束事を追加していくと生徒に不公平感を与えることがある。また一度過ちを許すと、生徒は「以前言わなかったくせに、あの子は見逃して何でおれだけ注意するんや。」と文句を言う。たまにはいいかな、という考えは通用しない。生徒とぶつかるのを避けている教員は授業が上手くいっていない。首尾一貫した態度で臨まないと教員は務まらないと感じた。

学校によって生徒の態度は様々で、思うように授業が進まずストレスと戦っている先生方もいます。毎年、生徒の雰囲気も変わっているので、人から聞く内容より、実際にボランティアなどに参加し多くの生徒と教員を見て、教員を目ざすのがよいと思います。

中尾 祥太 さん 奈良県 小学校 合格

外国語学部 英米語学科 平成 26 年3月 卒業

平成 25 年度卒業の中尾祥太と申します。現在は奈良県内の小学校で、特別支援学級の5年生の担任として勤務させていただいています。

今年、奈良県教員採用試験を再度受験し合格をいただくことができました。角野先生や岡澤先生をはじめ、多くの先生方の温かいご指導のおかげです。ありがとうございました。

今回合格体験記を書かせていただくにあたって、私が日々大切にしていることについてお伝えできればと思います。

○何事も一生懸命に

私は今年、常勤講師をしながらの受験でした。講師1年目で右も左も分からず、正直、採用試験どころではありませんでした。支援学級の担任として、今、目の前にいる子どもたちとどのように関わり指導していくのか、ということを中心に考え、日々を過ごしてきました。しかし毎日一生懸命に子どもたちにしてあげられることを考え、関わっていくうちに、教師としての自分のビジョンをより明確に持つことができました。そのことが今回の採用試験で活かされたことだと思います。一生懸命やらないと見えてこないものはたくさんあります。今自分が何をしなければならないのかを考え、どんなことでも精一杯することを私は日々大切にしています。

○感謝の気持ち

私は昨年の採用試験では、結果はついてきませんでしたが悔しさ以上に感謝の気持ちでいっぱいでした。というのも多くの大学の先生方をはじめとして、実習先の先生、家族、その他大勢の人が私を応援してくださいました。角野先生は冬休みにも関わらず、朝から晩まで模擬授業の指導をしてくださいました。ここまでしていただいて結果が伴わなかったことは残念でしたが、自分が教師になることを多くの人が応援してくれて、自分は幸せだなあ、と感じることができました。今年講師になってからも、職場の先生方が私を応援してくださいました。今年こそは期待に応えて採用試験に合格したい、という気持ちで試験に臨みました。

外大には、親身になって温かく指導して下さる先生が大勢いらっしゃいます。また共に支えあう仲間や家族もいると思います。常に感謝の気持ちを大切に、毎日を送ってください。

以上が、私が日々大切にしていることです。また教師になってからも大切にしていき、これから出会っていく子どもたちにも伝えていきたいことです。

採用試験は長く苦しい道のりですが、乗り越えたときに会う子どもたちを想って頑張ってください。私も来年度から教諭としてスタートし、新しい子どもたちと出会います。皆さんの合格を心から応援しています。

山田 翔 さん 大阪府 中学校 英語科 合格

外国語学部 英米語学科 平成 23 年 3 月 卒業

「七転八起」

私は大学四回生の時に教員採用試験に落ち、寝屋川市で講師として働くことになりました。当時は自分の勉強と仕事を両立しよう決意していましたが、働き始めるとプライベートな時間は土日を含めてほぼありませんでした。1年目は授業準備のために毎日夜11時過ぎまで学校で仕事をし、放課後や休日は部活動に参加し、何が良いのかわからずひたすら試行錯誤の1年間でした。もちろん2回目の採用試験も不合格。講師である私は2年目から他校へ行くこととなり、1年間関わった生徒との別れはとてもさみしく、この生徒を卒業させるまで教えたかったと悔しい気持ちになりました。2年目

の学校では支援学級、英語科、自分の専門であるバスケットボール部を担当し1年目よりも激務になり、学校ごとに異なる教科指導方法と学校運営に戸惑いがありました。転勤になると学校ごとに雰囲気異なる生徒に適切な授業を行うために、教材研究を1から始めなくてはなりません。しかし、当時は「自分の事よりも、今の生徒」と考え、子供たちと関わっていくことで、もっと子供のために頑張ろうと思っていました。こういった気持ちが強くなればなるほど、授業準備や部活動に時間を費やすようになりました。ただそれに伴って、自分の勉強に取り組むことへの気持ちが薄れていきました。そして3回目の採用試験に落ちた日、ある先生から「本当に生徒と一緒にいたいなら、受かりなさい！」と言われました。私は本当に悔しくもあり、これからの自分の社会的立場やその先生がおっしゃった本当の「意味」を考えることができました。また、父親の体調が悪化し余命は長くないと言われました。4年目は気持ちを切り替え、毎日夜の11時から2時間勉強に費やしました。もちろん寝不足にもなり部活に積極的に参加できない日もあり、いろいろな人の助けを借りました。しかし、こんな私でも父親のために親孝行したかったですし、「今の生徒とこれからの生徒」のために頑張ろうと思えました。その結果、4年目にして合格することができました。1次試験の面接は私が真剣に生徒と関わってきた事が評価されたと思いますし、2次試験の模擬授業では面接官から「わかりやすいね！うまい！」と言って頂けました。その言葉に本当に感動しました。私は合格して初めて色々な人の支えに気付くことができ、4年間生徒のために頑張ってきて良かったと心から思いました。また何かを理由にして「できない」では一生何もできないなと感じました。私の場合は「父親のため、生徒のため」に頑張ることができました。人が努力する理由は何でも構わないと思いますが、自分が教師を志したときの決意は決して忘れてはいけないと感じました。そして、今スッと頭の中を過る恩師の言葉があります。「七転び八起き。苦労せえよ、苦労した分だけ幸の光が……」本当に4年間、苦労して良かったです。

《3回生教育実習ガイダンスから報告》

「パネルディスカッションを終えて」

英語キャリア学部 4回生 西岡将生

前回のガイダンスで私が皆さんに伝えたことの中で、大切であると思う3点を述べます。

1点目は、ボランティア活動に参加することです。関西外大はさまざまなボランティア活動を提供してくれていますし、学外においてもたくさんの活動が行われています。それに参加することで成長することができ、教育実習、教員採用試験、またその後の人生で役に立つと思います。私が参加した学内のボランティア活動は、大阪府中学生サマーセミナー、小学生まなびングキャンパス、KTAPの3つの活動です。どのボランティア活動を通して私は成長することができました。

2点目は、仲間をつくることです。一人でも教師になることはできると思いますが、おすすめはしません。私はもし仲間がいなければ採用試験で合格できていた自信はありません。なので、仲間を作ることを勧めます。私がどのように仲間を作ったかということ、同じ教職の授業を履修していた友人と勉強会を始めました。最初は英語キャリア学部の学生だけでしたが、勉強会のことが広まり、英米語学科の学生も仲間に加わり、徐々に人数が増えていきました。肝心なのは、教職への思いを持つことだと思います。類は友を呼ぶ、という言葉があるように、思いが一緒であれば集まっていくものだと思います。

3点目は、逃げないことです。教育実習、教員採用試験までの道のりは楽なものではありません。楽しいこともあります、辛いこともたくさんあります。辛いからといって、逃げていてはゴールには辿りつきません。私が2年生の時、当時4年生の先輩から「夢は逃げない、逃げるのはいつも自分」という言葉を教えていただきました。そしてその先輩は教員採用試験に見事合格されました。私は辛くなったときは、よくこの言葉を思い出し、奮起し、頑張りました。逃げるも逃げないも、自分次第です。強い気持ちで自分に打ち勝ち、教育実習、教員採用試験にも打ち勝ってほしいと思います。

以上3点が一番伝えなかったことです。限られた時間をうまく使い、教育実習と教員採用試験を乗り越えてほしいと思います。みなさまのご活躍をお祈りしています。

《大学院進学者から》

沖 勘介 さん 大阪教育大学大学院教育学研究科 合格

外国語学部 英米語学科 4 回生

「大阪教育大学大学院に合格して」

皆さま、はじめまして。外国語学部英米語学科 4 年の沖勘介と申します。このたび、大阪教育大学大学院教育学研究科（特別支援教育専攻）に合格し、進学をすることにいたしました。教職教育センターが創設されてから長い期間、先生方、諸先輩方によって歴史が紡がれてきたこの「羅針盤」に掲載させていただける機会をくださったこと、深く感謝しております。

お話を始めさせていただく前に、「外大生なのになぜ特別支援教育専攻なの？」と疑問を抱かれた方もいらっしゃると思いますので、説明をさせていただきます。私は、両耳に高度の感音性難聴という聴覚障がいがあります。3歳の頃に判明したことで、音声の聞き取りに支障があり、現在は両耳に補聴器をつけて生活をしています（それでも完璧に相手の方のお話を理解できるわけではありませんが）。ちょうど同じ頃から両親の勧めにより、英会話教室に通い始め、英語を使うことはある程度支障がなくなるようになりました。しかし、私が通った普通学校の現場では少し話が違いました。健聴の生徒と同じような環境で、聴覚に障がいのある生徒が学べる環境が整備されていなかったのです。「聴覚障がい者だけでなく、障がいをもつ人々みんながもたない人々と同じように英語を学び、そして生かしていける環境を作らなければ」と。こう思い、私は本学卒業後に大学院で特別支援教育を専門的に学び、特別支援教員免許を取得したいと決心し、大阪教育大学大学院を受験しました。

ややお話が逸れましたがご容赦ください。院へ進学したい、あるいは興味があるという後輩の方々
に参考になればと思いますので、私が合格に向けて取り組んでいたことを3点ほど述べていただ
きたいと思います。

1. 過去問を手にする→問題内容を知る→傾向に沿って勉強する

院入試において一番重要なのは、まずは過去問を手にし、敵を知ることです。専攻の種類によって試験の傾向が変わることも十分ありえますので、まずは3~5年分の過去問を手にしましょ
う（大学院の入試課などで入手できます）。問題内容を把握してからは、とにかく勉強です。私の
場合、特別支援に関する書物や特別支援学校学習指導要領を試験までの毎日読み漁り、適宜必要
なところはノートにまとめていました。試験当日まで、毎日貪欲に学びましょう。

2. 実用英語検定1級レベルの英語力をつける（院生の準1級取得は当たり前です）

残念ながら取得まではできませんでしたが、2年の春ごろから英検1級の英単語帳を用いなが
ら、毎日語彙の勉強をしてきました。実際の院入試でも英語が試験科目として課されるところも

多く、その試験内容の多くが英文の和訳もしくは要約などです。専門的かつ高いレベルでの語彙力が必要ですので、日々の鍛錬が必要とされます。また入学後にもいずれ学会や論文作成において総合的な英語力が試されますので、「英語ができる」ということだけでかなりの負担軽減になります。

3. 専攻に関係するフォーラムやイベントへ行く

やはり机上の知識よりも現場の経験も必要です。私は友人を通じて京都産業大学や関西大学へ訪問し、障がいをもつ学生への支援体制の見学や、現地の学生と交流をしていました。また、地域の手話サークル等にも積極的に参加し、特別支援教育に関する知識や技術を学び、吸収していきました。語学を専門的に学ぶ本学では特別支援教育を学ぶ機会は限られています。そういった意味でも、みなさまが受験する専攻が英語関係以外であれば、その専攻に関係のあるイベントに積極的に参加するとよいかと思います。

率直に申し上げますと、私が院を受験したいと決心したのは今年に入ってからでした。教員採用試験の勉強もしてはいたのですが、その勉強をしている間に常に頭によぎっていたのは「院で特別支援教育を勉強せずに教員になっていいのか」という葛藤でした。その葛藤が消え去ったのは、聴覚支援学校で教育実習をしていた時だと記憶しています。自分が、私自身が今まで学んできたことがほとんど役に立たなかったのです。確かに同じ障がいがある生徒に指導をしましたが、それでも自分の勉強不足を感じたのです。「私はまだ胸を張って教壇に立ち、教えることはできない」と、悟ったのです。

大学院に行く方の志望動機には様々なケースがあると思います。私のようにまだまだ勉強不足だと感じ、院へ進学してさらに学びを深めるといった方や、教員を何年か経験してから休職をして院へ行かれる先生方もいらっしゃいます。私がみなさまに一番知ってほしいのは、「自分に妥協したら、そこで成長が止まる」ということです。採用試験の勉強でも耳にするかと思いますが、現在、教員には「学び続ける力」が必要とされています。教員になって働く、あるいは私のように大学卒業後に院に行く、数々の進路がみなさまの目の前に用意されています。「道は我々が見つけるか、もしくは我々が作るのだ」(ハンニバル)という言葉のように、常に「妥協せずに学ぶ」ことを忘れず、未来への扉を開いていってください。そして、支えてくださる人々に感謝の気持ちをもって、自分を信じて貪欲に学んでください。

最後になりましたが、4年間支えてくださった先生方、ICCの教室をいつも使用させてくださった教職教育センターの皆さま、受験にあたり支えてくださった友人たち、そして、家族に感謝の意を表して、この羅針盤の草稿を終わりたいと思います。

ご精読ありがとうございました。ご多幸をお祈りしております。

Find yourself, and you can find what you want to do.

シリーズ④ 「心の窓を少し開いて！」

【子どもの安全】

子どもの通学時間を狙う痛ましい事件が相次いでいます。

大阪府内の市町村では、大阪教育大学附属小学校児童殺傷事件等も踏まえ、子どもの安全対策について、小学校への警備員（受付員）配置や子ども見守り安全隊の取組み、通学路の要注意箇所の把握と安全マップの作成、集団登下校の実施、子どもに危険を予測し回避する能力を身につけさせる実践的安全教育の研修などに取り組んでいます。

しかし、このご時勢です。100%「子どもの安全」はありません。

「子どもの危険回避研究所」（NPO法人：東京）の横矢真理所長が、子どもの安全に関する情報を発信しています。その標語がユニークです。

題して、「きょうは、イカのおすし」。

きよ 「（知らない人や車から）距離を取る」
う 「後ろに注意」
は 「早めに帰る」
イカ 「イカない」
の 「乗らない」
お 「大声を出す」
す 「すぐに逃げる」
し 「知らせる」

防犯教育の基本は、危機意識を持つことにあります。子ども自身が危険を察知し、自ら避けるといった行動が求められます。それには、まず大人が本気で子どもに向き合うことが大切です。子どもたちは大人の本気を見ています。

登下校時の子どもの安全確保について、どのような対策が有効でしょうか。

- 通学路の定期的な安全点検と状況把握
- 危険な場所の共通認識
- 集団登下校の実施
- 学校地域で見守る体制の整備
- 警察との連携
- 危険予測・回避力をつけるための安全教育の徹底
- 通学路安全マップの作成
- 防犯ブザーの携帯
- 「不審者」等に関する情報の共有化（学校等警察連絡会議の開催）

子どもの安全は、何よりも地元地域の人々と子どもが顔なじみになることです。

毎朝のあいさつ運動以外にもそうした機会があります。総合的な学習の時間に地域の方から昔遊びなどの生活体験を聞き取ったり、地域との合同防災訓練や運動会などの行事の際に子どもに地域の人々を来賓として紹介することも考えられます。

子どもの安全対策は、

- 複数で行動し、特定の人に負担が集中しないこと
- 腕章やユニホームなどを作って一体感をもつこと
- 活動中の万が一の事故に備えて保険に加入すること
- 他地域や他団体と連携して取り組むこと

なども継続して取り組む重要なポイントです。

(A)

編集後記——教職教育センターより——

立冬も過ぎ、暦の上では冬となりました。野山ではリスやクマといった動物たちが、多くのエネルギーを蓄え、春に向けて冬眠に入ります。

皆さんも、春からの新たなステージに向けて、今ある環境の中で、多くのエネルギー（知識・経験）を積むように心がけてください。そのために、このように多くの先輩方が辿ってきたこの足取りが役に立てばと思います。